



# みどりの風

<http://sumiyoshi.shibata.ed.jp/>

TEL0254-24-1148

## 教員不足に思う

校長 天井 弘

2月1日(火)、文部科学省の発表をもとに新聞やテレビ等で「小中高教員2558人不足」という報道がされました。教員不足の理由として、教職員の多忙化に伴う志願者の減少、産休・育休・病休取得者の代替教員の不足、特別支援学級数の増加等が指摘されています。このことは、新発田市も含め、新潟県全体でも同様の現状があります。

数年前、英オックスフォード大学のオズボーン准教授の発表した論文が話題になりました。将来、AIやロボットが普及していく中で、なくなる仕事・職業、なくなる仕事・職業についての研究論文です。この論文では、「教員」は、将来なくなる仕事・職業に位置付けられています。人とかかわりが不可欠で、多様であるためAIでは対応が難しいというのがその理由です。「教員」の仕事は、人とかかわることで、その存在意義が生じます。

住吉小学校の教職員は、日々、出勤から退勤まで、学習指導はもちろん、生徒指導上の問題への対応、保護者の皆様への連絡、換気や消毒などの新型コロナウイルス感染予防対策、校務に関する事務等、多様な業務を行っています。教職員は確かに、多忙な勤務状況があります。働き方改革をさらに推進していかなければなりません。このような多忙な状況ですが、住吉小学校の教職員は、一生懸命に子どもたちとかかわっています。そのエネルギーの源は、子どもたち一人一人の成長にかかわっているという責任感と喜びにあると受け止めています。私たち教職員は、子どもたちの日々の小さな成長に喜びを感じています。子どもたちの学力、豊かな心、健やかな体の面から伸びや成長を感じるのが意欲につながっているのです。

私は、小学校時代、落ち着きがなく、勉強も得意ではありませんでした。担任の先生から、よく注意や指導を受けていました。しかし、6年生の時、担任の先生がある日、「天井くんは、理科と運動のセンスはあるぞ」と褒めてくれました。あまり褒められたことのない私は、とても嬉しくなりました。自己肯定感が高まりました。それ以降、私の取組に変化が生じ、進路を決める時期には「小学校の先生になろう」と思いました。私は、その先生に出会わなかったら小学校教師には絶対にならなかつたと思います。教師になったある日、偶然その先生に会って挨拶をしました。先生は「あの天井くんが、まさか先生になるとは思わなかつた」と言ってとても喜んでくれました。それ以降も教員になった私を指導してくださいました。

4年1組の長谷川裕子先生は、私の教え子です。同窓会開催の幹事として、私に連絡をくれた際、「天井先生、私も今、小学校の先生をしています」と話してくれました。私は驚くと同時にとても嬉しく感じました。今、教え子と一緒に勤務できることに感謝しています。

この秋、他市に住む高校1年生の女子2名が、小野沢一世先生を訪ねて住吉小学校にきました。小野沢先生と私は前任校で一緒に勤務しました。私を見た女子高生は、「校長先生だ」と言って喜んでくれました。成長した教え子が訪ねてきてくれたことに小野沢先生は感激し、とても喜んでいました。目を輝かせ、笑顔で近況を語る女子高生の姿が忘れられません。

教員は、魅力ある職業です。住吉小学校にも、なりたい職業と聞かれて、「学校の先生になりたいです」と答える子どもたちがいます。夢を語る子どもたちに将来を託します。

# 住吉小学校 学校評価報告

住吉小学校の教育目標は、『助け合い、進んで学習するたくましい子ども』です。この『助け合い』という言葉は、学校創立時から教育目標に盛り込まれ、住吉小学校の教育のバックボーンとなっています。この教育目標達成のため、知育部、かかわり育成部、体力向上部の3つの部に分かれ、子どもたちの「頭・心・体」の育成のために取り組んできました。例年、2月に「住吉小学校評価報告会」にて報告させていただいておりますが、今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、紙面にて報告させていただきます。

## かかわり育成の取組



【重点目標】

### 《かかわる力の育成》

めざす子どもの姿

自分もみんなも大切にすることも



### にこにこタイム(学級内)の実施



### 取組① 「クラスの実態を見直したり、子どもとどのようにかかわったりしたかをまとめたレポートの作成」

※担任それぞれが自学級をどのようにしたいか、クラスの子どもたちとのかかわりを通してまとめます。

★職員一人一人が子どもとのかかわりを大切にしていきます。

### 取組② 「なかま意識を醸成させる活動の実施」

- ・たてわり班での活動(スマイルタイム)を通して、異学年交流の機会を意図的に設定します。
- ・学級内での活動(にこにこタイム)を通して、子ども同士のかかわりを広げる機会を意図的に設定します。

6年生は、下学年のみんなを楽しませるための活動を考え、当日の進行をします。みんなのことを考え思いやる姿がありました。下学年の子どもたちは、そんな6年生の姿を見たり、お世話してもらったりすることで、6年生へのあこがれや感謝の気持ちをもちました。また、週1回のにこにこタイムでは、各クラスで、どんな遊びをするかを話し合っって決め、自分たちの力で遊び活動を行い、振り返りをするという流れで活動を進めました。時には、トラブルが起こることもあります。そんなときこそ、よりよいかかわりを考えるチャンスになります。にこにこタイムの活動を積み上げてきたことで、学級内の人間関係が、より深まり、自治的な活動が増えました。

### 取組③ 「人権教育、同和教育の授業「じんけん」の実施」

- ・なかまづくりを基盤とした、子ども同士の思いを交流する「じんけん」を全学級で年間5回以上実施します。 ※学級内の問題と社会にある差別問題を授業で取り上げます。

### 人権教育、同和教育の授業「じんけん」

学習内容		1年	2年	3年	4年	5年	6年
差別事象	身の回りの差別問題	いじめ・仲間はずし	●	●	○	○	○
	社会で起きている差別問題	男女差別	○	●	○	○	○
	障がいがある人への差別				○	●	○
	高齢者に対する差別				●	○	○
	職業差別			○	○		○
	外国人および外国籍の人への差別			○			○
	病気にかかった人への差別			○	○	○	●
部落差別				○		●	

いじめ、男女差別、高齢者差別、障がい者差別、病気の人への差別、部落差別・・・、私たちが生きる世の中には、多様な差別問題があります。どの人もその人らしく生きるために、これらは解消していかなければならない人権課題です。学年に応じて、これらの課題を具体的に取り上げ、教師も子どももみんな考えてきました。

<各学年の「じんけん」の学習内容>



【重点目標】

《学力の向上》

めざす子どもの姿

互いの考えを認め、学び合える子ども



**取組① 「学習の基礎・基本を身に付けさせる」**

・学習の基礎・基本を身に付けるために 新潟県が配信している学習システム（Web テスト）を活用しました。Web 配信問題や習熟テスト等を実施しながら、学習内容の定着状況を確認しました。また、日々の指導の中で必要に応じて補充学習を行い、基礎・基本の定着を図りました。

**家庭学習の習慣化**

自分の力を高めるために、自分で学習の計画を立て実行できる力(自主学習ができる力)

規則正しい生活習慣  
メディアコントロール  
タイムマネジメント  
できる力

学年×10分できる力

自主学習できる力

学習用具の忘れ物をしない力を(自立)

みんなが高め  
合っていこう!

学ぶ楽しさ  
分かる喜び



・家庭学習の習慣化を図りました。家庭学習は学校で学習した内容をしっかり理解する上で非常に重要です。年4回の家庭学習強調週間で児童の意識を高め、各学年で工夫した学習カードを活用して取り組んでできました。

**取組② 「周りの人の話をしっかり聴き、それに対して自分の考えを話す」**



・自分の考えを表現すること、それを仲間が聴いて反応してくれること、その積み重ねから「そうか」「なるほど」「そんな考えもあるのか」というように学習が深まります。そして、「また表現してみたい」という気持ちにつながっていきます。また、今年度はタブレットをツールとして使いながら、友だちと一緒にかかわって学ぶことで、主体的に学習に取り組めるよう、実践を行ってきました。

・かかわり方のスキルを身に付けるために「住吉スタンダード7」を活用してきました。これは猿橋中学校区で共通して取り組んでいるものです。小学校のうちから話の聴き方をしっかり身に付けていくことが主体的・対話的で深い学びにつながっていきます。また、子ども同士が学び合う協働的な学びにもつながっていきます。授業の中にもペア学習やグループ学習を多く取り入れました。



【重点目標】

《体力向上・健康増進》

めざす子どもの姿

☆互いのよさを認め、楽しく運動する子ども

☆正しい生活習慣を身に付ける子ども



**取組① 「互いの良さを認め、楽しく運動する」**

取組その1

**体力向上**

①互いのよさを認め、楽しく運動する子ども

＜取組例＞

体育授業  
ペア・グループ  
活動

運動環境の  
整備

体育的行事  
運動会・体力テスト

子どもたちの  
意欲を高める  
カードの活用

ワークシート

仲間とかかわりながら運動する体育授業



・様々な学習形態（上記取組例参照）を取り入れて楽しく運動ができるように工夫して取り組んでいます。体育の授業で仲間とかかわりながら運動することができました。

その中で

☆協力し合う大切さを実感できる授業を全校で意識し、実践しています。学習を通して、相手を認める気持ちやできるようになりたいという気持ちも育ててきました。

☆苦手意識をもっている運動でも、終わる頃には、その運動を好きになったり楽しめたりできるように工夫してきました。

## 取組② 「よりよい生活習慣を身に付ける」



取組その2

健康増進

### ②よりよい生活習慣を目指す子ども

〈取組例〉

パワーアップ  
週間

メディア  
コントロール  
強調週間

保健・家庭科

むし歯予防  
教室

養護教諭  
栄養士さん  
出前授業

・様々な取組（左記表参照）を取り入れてよりよい生活習慣が身に付くように取り組んできました。そのために自分の生活を見つめ直し、少しでもよりよいものになるよう指導してきました。また、高学年になるとメディアコントロールが難しくなってきます。自

分で時間をコントロールできるように働きかけを行ってきました。その結果、メディアコントロール強調週間では目標時間を守ることができました。

しかし、この取組が普段も継続されることが課題となります。強調週間だけでなく、日頃からメディアコントロールを意識した生活を心がける必要があります。メディアへの依存はゲーム中毒やSNSのトラブルにもつながります。各家庭で情報機器（スマホ、パソコン、ゲーム等）を使うときのルールやマナーについて、ご家庭でも指導をお願いします。

## 住吉小学校 学校評価方法

かかわり育成部・学力向上部・体力向上部では児童アンケート、保護者アンケート、テストの結果などを用いて評価を行っております。（数値は肯定的評価です）

か か わ り 育 成 部	1, 児童アンケート「安心して話せる雰囲気のある学級だ」の質問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。	9 6 % A
	2, 児童アンケート「みんなが気持ちよく生活するために、学校や学級のきまりを守っている」の肯定的回答の割合を80%以上にする。	9 7 % A
	3, 「相手のことを考えた言葉づかいや態度で接している」と回答する子どもの割合を80%以上にする。	9 8 % A
学 力 向 上 部	1, 国語と算数の単元ワークテストの学期全体の学級平均が、全国平均を超える学級の割合を90%以上にする。 ①国語 ②算数	①100% A ② 9 5 % A
	2, 保護者アンケートで「家庭学習の取組についての項目」の肯定的評価を80%以上にする。「おさんは『学年×10分』をめやすに家庭学習をしている。」	8 7 % A
	3, 児童（低学年・中高学年別）の「聴き方・話し方に関する」アンケートで「相手の意図を分かろうとして聴くことができた」の肯定的回答の割合を80%以上にする。 ① 話し手を見て聴く ② 話し手が話したことに反応する（うなずく、「分かりました」などと言う） ③ 自分の考えを話すことができる。（中高学年）	① 9 3 % A ② 9 2 % A ③ 8 8 % A
体 力 向 上 部	1, 体力向上： 児童アンケートで「友だちと体を動かすことができた」と答えた児童の割合を90%以上にする。	9 5 % A
	2, 健康増進： 児童アンケートで「早寝早起き」の習慣が身に付いていると答えた児童の割合を90%以上にする。	8 8 % B

肯定的な評価をする児童が非常に多く、80%以上というのはとても高い数値です。しかし、肯定的な評価をしていない児童がいることも事実です。このことをしっかりと受け止め、今後も、一人一人に目を向けて支援していくことが必要だと考えています。また、子どもたちの育成のためには、家庭との連携が不可欠です。今後とも、学校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いします。